

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900468		
法人名	大倉商事有限会社		
事業所名	グループホーム 愛老		
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉3102 (電話) 029-840-8166		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	7人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.14人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月30日現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護1	5	要介護2	5		
要介護3	2	要介護4	3		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80.9 歳	最低	64 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川島医院 にとう歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた木造家屋の生活空間と広い敷地に利用者や運営者による手入れの行き届いた庭や自家菜園で、四季折々の草花や野菜の収穫を楽しんでいる。「明るく、笑顔で、その人らしく」を理念とし、管理者と職員は日々のサービスに努め、利用者とコミュニケーションが図られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直し、職員の研修、家族への日常の様子に関する情報提供など、改善課題の取り組みが残されたままになっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が作成し職員に回覧しているが、職員の意見を反映し全員で取り組むまでには至っていない。</p> <p>外部評価後の改善課題は残されたままになっているので、運営者や管理者、職員は外部評価と自己評価の結果を踏まえ具体的な改善に取り組むことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市職員、民生委員や区長、地域の隣人、利用者の家族を委員として、ホームの説明や利用者の生活状況報告などを内容として1回開催しているが定期的な開催までには至っていない。</p> <p>会議では外部評価や自己評価の結果も議題とするなど活発な会議とするとともに、サービスの質の向上に活かすことを期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームから家族に対する情報提供が少なく、来訪の機会が少ない遠方の家族への報告が十分とはいえないので「ホーム便り」を定期的に発行し、ホーム行事や利用者一人ひとりの生活ぶりを伝え、家族の安心を図るための工夫が望まれる。</p> <p>玄関に意見箱を設置しているが、重要事項説明書に苦情相談窓口としてホーム以外の第三者機関を明記していないので市役所や国民健康保険団体連合会など第三者機関を明記することが望まれる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し廃品回収や保育所の運動会、敬老会の行事など地域活動に参加している。</p> <p>また、近くの住民が野菜を持って訪れるなど地域と交流している。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境で生活ができるよう「明るく笑顔で その人らしく」を理念としているが、地域密着型としての理念の見直しをするまでには至っていない。	○	地域住民との交流を基本方針に加え、地域密着型サービスのあり方を考えた新しい理念を全職員で話し合い作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者は職員の採用時に説明するとともに、ミーティング時など日々の活動の中で確認し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し廃品回収や保育所の運動会、敬老会の行事など地域活動に参加している。 また、近くの住民が野菜を持って訪れるなど地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し職員に回覧しているが、職員の意見を反映し全員で取り組むまでには至っていない。 また、評価後の改善点は残されたままになっている。	○	運営者や管理者、職員は外部評価と自己評価の結果を踏まえ具体的な改善に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員、民生委員や区長、地域隣人、利用者の家族を委員として、ホームの説明や利用者の生活状況報告などを内容として1回開催しているが定期的な開催までには至っていない。	○	外部評価や自己評価の結果も議題とするなど活発な会議とするとともに、サービスの質の向上に活かすことを期待する。 また、定期的に開催することも期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に書類等を持参した時に担当者と情報交換をするとともに運営課題等を相談している。 介護相談員を毎月受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	身体状態の変化以外はホームを訪れた家族への報告だけで、定期的なホームだよりの発行がないため、ホーム側からの積極的な情報提供が少なく、来訪の機会が少ない遠方の家族には報告が滞りがちである。 金銭管理は毎月の請求時にレシートを添えて送付している。	○	「ホーム便り」を定期的に発行し、ホームの行事や利用者一人ひとりの生活ぶりを伝え、家族の安心を図るための工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、重要事項説明書に苦情相談窓口としてホーム以外の第三者機関を明記するまでには至っていない。	○	ホームには苦情を言いにくいことも考えられるので、市役所や国民健康保険団体連合会など第三者機関を明記することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職によって利用者一人ひとりに与える影響を予測し、混乱のないよう事前に対応策を考え、全職員で対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講職員の偏りが見られる。 運営者は段階に応じた職員の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	段階に応じた職員の研修計画を作成・実行し、職員の資質向上を図ることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が交代後の人員補充や引継ぎができていないため、同業者と交流する機会や時間を確保するまでには至っていない。	○	運営者は現状を把握するとともに、管理者や職員が同業者と交流を通じてサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に納得したうえで利用を開始できるよう、利用者とその家族にホームを見学してもらっている。 また、管理者がホームのパンフレットを持って利用者宅を訪問している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との日々の会話の中で、趣味や子育て、仕事などの経験談を聞きながら、相互関係の維持に配慮し支援に努めている。 利用者の生活歴を活かし時計を修理してもらったこともある。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションのなかで利用者一人ひとりの思いの把握に努め、職員申し送りノートに記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人ファイルに日々の状態を記録し、利用者や家族、職員と相談しながら介護計画を作成するように努めているが、面会の少ない家族に対しては、介護計画に対する意向の聞き取りが十分とは言えない。	○	家族の意見を介護計画に反映できるよう、積極的な働きかけや工夫が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化がある場合はその都度現状に即した対応をしているが、随時の介護計画の見直しをしていない。 介護計画書は必要項目の記入漏れが目立ち、定期見直しは1年に1度となっている。 また、どの介護計画書にも家族の捺印が漏れている。	○	日々の記録や経過記録を参考にし、6ヶ月に1度、見直すことを期待する。 また、状態の変化に即して随時見直すことも期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の状況やそのときどきの要望にそって買い物や通院支援をしている。 入院した場合は見舞いに行き、洗濯物を引き受けたりしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前にかかりつけ医を確認するとともに、ホームの協力医院に変更が可能であれば変更している。 家族と相談しながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの経験はない。 家族や医師と話し合い、ホームで対応可能なことを明らかにして支援しているが、将来に備えたマニュアルや意思確認書を作成するまでには至っていない。	○	家族の不安を取り除くとともに、利用者や家族の意向を確認しながら対応方針を全職員で共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライドを損ねないよう気遣いながら明るく対応している。 個人ファイルは事務室の書庫の中に保管し、情報漏れがないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で散歩に出かけたり、草取りに励んだり、縫い物をしたりと利用者一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き、新鮮な季節の野菜を取り入れた献立作りをしている。 職員は利用者によさしく声をかけ、一緒に食事作りや食器洗いをしている。 誕生日や米寿などの祝い食を作り、利用者やその家族に喜ばれているが、職員は一緒に食事をしていない。	○	職員も利用者とともに食事をし、家庭的な雰囲気づくりをすることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器洗い、調理、草取り、書道、塗り絵など利用者一人ひとりの力量にあわせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1人で散歩に出かける利用者もいる。 車椅子の利用者には中庭の藤棚の下で外気浴を支援している。 毎年、花見や近くの施設の納涼祭に出かけるなど施設の外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、不穏時など一時的な施錠にとどめ見守りや気分転換に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はこれまで不定期に3回実施したのみである。 また、地域との協力体制を構築するまでには至っていない。	○	運営推進会議で地域代表に協力を依頼するとともに、消防署の指導のもと定期的に訓練し非常時に備えることが望まれる。 また、災害を想定した炊き出しなどで地域の方々と連携することを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を記録し管理している。 乳製品も毎日摂取できるようにしているが、栄養士による献立をチェックするまでには至っていない。	○	地域の保健所の専門家に定期的に栄養管理指導を受けることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、浴室、トイレなど建物全体がゆったりと落ち着いた造りになっている。 居間に広々とした和室を設置したり、居間から庭園が眺められるなど居心地良く過ごせるよう工夫している。 また、職員は季節の花をさりげなく飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はテーブルや座布団、衣装箱、家族の写真、思い出の土産品、人形などを持ち込み、利用者それぞれの部屋づくりをしているが、私物の持込が少ない利用者も見られる。	○	利用者が安心して落ち着いて暮らせるよう家族と相談し、馴染みの物品の持込に協力してもらうことを期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。